

要約 京都の経営経済動向調査結果 (2013. 9. 26)

- 2013年7～9月期実績と2013年10～12月期及び2014年1～3月期予想 -

京 都 商 工 会 議 所
担当：中小企業経営支援センター
電話 (075) 2 1 2-6 4 6 7

自社業況に明るさ ～国内景気も引き続き上昇～

概 要

今期の国内景気は、7月21日の参議院選挙の結果により、長期安定政権への道筋がつき、大胆な成長戦略の策定や財政健全化計画等の実施への期待がさらに高まったことを受け、前期から引き続きBSI値が上昇、続く10～12月期及び2014年1～3月期も景気の回復傾向が続く見通しとなった。自社業況については、不需要期を迎えた旅館・ホテルや料理・飲食業、食料品製造など下降する業種もみられたが、公共事業の増加や消費税引き上げ前の駆け込み需要等の影響から建設業や不動産業が上昇した。円高解消や海外リスクによる電気代や燃料のコスト増の負担は依然大きいものの、下降傾向の強い秋の需要期前にありながら京都経済は全体として前期の水準を維持し、堅調に推移している。需要期にあたる来期には、全体的に業況が大きく上昇するものと予想されるが、海外情勢の悪化による景気の下振れリスクや消費税対応などを引き続き注視していく必要がある。

(注) 8月上旬から中旬にかけ同調査を実施し、585社中468社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店などを持つ企業)。また7～9月期のBSI値は、4～6月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

I 国内景気動向

7～9月期のBSI値は、14.1(前期実績24.5)と、引き続き上昇した。今後の10～12月期は18.4、続く2014年1～3月期も11.7と上昇が続く見込みとなっている。

II 企業経営動向

自社業況(総合判断) 7～9月期のBSI値は0.6(前期実績0.1)とほぼ横ばいとなった。今後の10～12月期は12.5に上昇するが、続く2014年1～3月期は▲1.1に下降する見通し。

※自社業況(総合判断)は、以下に続く「生産・売上高、工事施工高」から「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

1. 生産・売上高、工事施工高 7～9月期のBSI値は、1.3(前期実績1.3)とわずかに増加した。業種別では、機械金属卸(17.5)、情報・事業サービス(14.6)、木材・木製品製造(11.1)などで増加したが、料理・飲食(▲25.0)、旅館・ホテル(▲23.9)などの不需要期にある業種のほか、染色(▲16.7)や繊維製品製造(▲10.0)などで減少した。今後の10～12月期は15.7まで増加し、続く2014年1～3月期は▲2.6と減少に転じる見込み。
2. 製・商品・サービス・請負価格 7～9月期のBSI値は、1.5(前期実績2.4)とわずかながら上昇した。業種別では、繊維卸(15.8)、機械金属卸(15.0)、木材・木製品製造(11.1)などで上昇し、旅館・ホテル(▲15.0)、鉄鋼(▲12.5)、料理・飲食(▲8.4)などで下降した。今後の10～12月期は4.3、2014年1～3月期は0.2と推移する見通しとなっている。

3. 経常利益 7～9月期のBSI値は、▲4.1（前期実績▲5.3）と減少した。業種別では、木材・木製品製造（11.1）、情報・事業サービス（8.3）、機械金属卸（7.5）などで増加したが、不要期を迎えたこともあり、旅館・ホテル（▲26.2）、料理・飲食（▲25.0）、染色（▲20.8）などで減少した。今後の10～12月期は8.2に上昇するが、続く2014年1～3月期は▲7.3に減少すると予想している。
4. 所定外労働時間 7～9月期のBSI値は、0.4（前期実績▲0.9）とほぼ横ばいとなった。業種別では、木材・木製品製造（11.1）、その他製造業（11.1）、建設業（10.0）などで増加し、旅館・ホテル（▲21.5）、料理・飲食（▲20.8）、小売業（▲4.8）などで減少した。今後の10～12月期は10.1まで増加し、続く2014年1～3月期は▲1.3と減少に転じる見通し。
5. 製・商品在庫 7～9月期は、「適正」とする企業が79.6%、BSI値7.5（前期実績7.7）と概ね適正水準で推移したが、引き続き一部に過剰感が見られている。業種別では、繊維製造（「過剰」57.9%）、窯業・土石（同40.0%）、木材・木製品製造（同37.5%）で過剰感が見られた。今後は、わずかながら改善していく見通しとなっている。
6. 資金繰り 7～9月期のBSI値は、▲3.6（前期実績▲0.6）とやや悪化した。規模別では、大企業（▲1.1）、中小企業（▲4.6）ともに悪化した。今後の見通しでは、10～12月期はほぼ横ばいとなり、2014年1～3月期は幾分悪化する見通しとなっている。

Ⅲ 当面の経営上の問題点

「受注・売上げ不振」（51.3%）が引き続き第1位になっている。第2位は「原材（燃）料高」（37.6%）、3位は「過当競争」（30.1%）、第4位は「製・商品（請負）価格安」（23.1%）、第5位は「人件費負担増大」（16.5%）となり、前回調査から順位の変動はなかった。

国内景気		実績			予想					
		2013年7～9月期			2013年10～12月期			2014年1～3月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		14.1	36.8	8.7	18.4	41.4	4.7	11.7	33.1	9.8
規模別	大企業	17.8	40.0	4.4	20.6	43.3	2.2	17.2	41.0	6.7
	中小企業	12.5	35.4	10.5	17.5	40.7	5.7	9.4	29.8	11.1
業種別	製造業	14.9	38.3	8.5	16.1	37.3	5.2	10.6	29.2	8.1
	卸売業	15.5	38.2	7.3	24.6	52.7	3.6	16.4	40.0	7.3
	小売業	11.9	28.6	4.8	19.1	38.1	0.0	14.3	42.9	14.3
	建設業	23.5	50.0	3.1	21.9	46.9	3.1	14.1	37.5	9.4
	不動産業	12.5	31.3	6.3	28.2	56.3	0.0	12.5	31.3	6.3
	運輸・倉庫業	19.0	37.9	0.0	24.2	48.3	0.0	15.5	37.9	6.9
	サービス業	5.7	28.8	17.5	15.0	38.8	8.8	8.2	33.8	17.5

自社業況 (総合判断)		実績			予想					
		2013年7～9月期			2013年10～12月期			2014年1～3月期		
		B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降	B.S.I.値	上昇	下降
総計		0.6	25.7	24.6	12.5	35.7	10.7	▲1.1	21.1	23.3
規模別	大企業	7.6	31.8	16.7	15.3	39.7	9.2	2.7	29.0	23.7
	中小企業	▲2.3	23.3	27.9	11.4	34.2	11.4	▲2.7	17.8	23.1
業種別	製造業	0.7	26.1	24.8	12.7	33.3	7.9	1.5	20.2	17.2
	卸売業	1.9	25.9	22.2	11.1	38.9	16.7	▲1.9	18.5	22.2
	小売業	▲9.5	14.3	33.3	14.3	38.1	9.5	4.8	38.1	28.6
	建設業	8.3	33.3	16.7	16.7	40.0	6.7	0.0	23.3	23.3
	不動産業	15.7	43.8	12.5	12.5	37.5	12.5	▲3.1	18.8	25.0
	運輸・倉庫業	5.4	21.4	10.7	21.5	50.0	7.1	▲5.4	21.4	32.2
	サービス業	▲5.7	22.8	34.2	7.7	33.0	17.7	▲8.3	20.2	36.7

※ B.S.I.値 = (上昇 [増加、他] - 下降 [減少、他]) × $\frac{1}{2}$